

---

コメント

---

田口 善弘 著 「重力下の粉粒体の動力学」について

(物性研究 61 - 1 (1993 年 10 月号) 掲載)

筑波大学 物理工学系 平田 隆幸

(1994 年 3 月 24 日受理)

レビューを読んで、読者がその現象に興味を持つようになれば、そのレビューは成功である。その意味で、このレビューは成功していると言える。偏りのないレビューは存在しない。著者は物理関係に偏ったレビューであると謙遜しているがそんなことはない。わかりやすく、粉体のいろいろな現象がまとめられている。うそではない。まだ読んでいない人は、ぜひ読んでみることをおすすめする。

数値計算の手法の章、特に『離散要素法』についてはわかりやすく手短にまとめられている。レビューのなかで著者が『ようわからんところは、ようわからん』とごまかさずに正直に述べているところは、非常に好感がもてる。わかったような顔をされて、よく理解できないレビューをされるのが一番困る。著者が『ようわからん』と書くことによって、粉体という分野は、ぐにゃぐにゃとしているがとにかくおもしろそうだなあと気にさせてくれる。

不満もある。数値計算と実験について紹介すると言っているわりには実験についての紹介が少ないなと言う気がするが。なぜ、そんな気がしたかの種明かしをすると、この解説を読んでシミュレーションをしてみようと言う気にはなったが、実験をしてみようという気にはさせてくれなかったからである。著者にお願い。もっと実験に関しても詳しく教えてよ。工学屋さんがいろんな実験してないわけないんだから。

粉体の動力学が自然現象にも適応できる。例えば、堆積現象や火山現象である。Size segregation は堆積現象の重要なテーマであり、普間岳の噴火で話題になった火砕流は粉体の流動現象である。それらのことにも、著者がふれてくれていると、もっとたのしいレビューになったのじゃないかと思うのは、贅沢な悩みかな？